

## (^\_^)v 趣味に生きる (第36回) ~. ~. ~. ~. ~. ~.

### ダイキャストモデル ~固定翼機 1/200 スケール~ に拘る

三 浦 雅 一

(北陸大学薬学部 部長・教授)

#### ◆はじめに

子供のころから鉄道模型、モデルガンなど模型を組み立てるのではなく完成した模型を集めるのが趣味であった。集める(コレクション)と言ったら、切手やコイン、そしてマイレージ(特に、Star Alliance: スターアライアンス系)にもかなり拘ったが... 要は、私の場合は、模型を陳列し飾っておき眺めるのが大好きな鍵っ子のオタク少年だった。こんな鍵っ子少年も中学生になってからはアマチュア無線の虜になり、そして受験勉強で模型コレクションや無線とは縁遠くなっていた。

55歳を過ぎ中年の仲間となった鍵っ子も、15年くらい前からまた模型コレクションに懲りだした。鉄道模型はカトー(KATO)やトミックス(TOMIX)などのNゲージ(特に、電気機関車やディーゼル機関車、そしてレールポイントのコレクション: 鉄マンの私は、自称ポイントフェチです)、モデルガンは六研/エラン(ELAN)ブランドのコルトガバメント(Colt Gun)に拘り続けている。

そんな模型好きの私がここ数年特に拘り続けているのが、200分の1(1/200)スケールという手のひらサイズのダイキャストモデルの飛行機である。ずっしりとまではいかないが適度な重量感があるため、Nゲージやモデルガンと同様にダイキャストのもつメタルの質感は十分に楽しむことができる。コレクション性に優れ、このスケールにしては驚くほど精細な造形と塗装となっている。さらに私の拘りはエスカレート

し、モデルは全て固定翼(プロペラ)機で日本国内において実施に運用している(運用していた)ダイキャスト固定翼機モデル(1/200スケール)に拘り続けている。私のコレクションの範疇には、ジェット機や戦闘機などは眼中になく、とことんプロペラ機のみになら興味がない。

#### ◆ダイキャストとは

ここでダイキャストという言葉の説明する。ダイキャスト(Die Casting)とは、金型鑄造法のひとつで、金型に溶融した金属を圧入することにより、高い寸法精度の鑄物を短時間に大量に生産する鑄造方式のことである。ダイキャストとも言われており、国内には社団法人の協会組織まであり、鑄物を扱う関係者であれば誰でも知っている金型鑄造法のひとつである。

鑄造行程の詳細は専門書に譲るとして、使われる金属としてはアルミニウム合金、亜鉛合金、マグネシウム合金などがある。プラスチックでない重量感と質感のある玩具製造には、一般には亜鉛合金が使用されている。

最近、日本の金型技術が中国企業に流出するニュースが話題となっているが、臨床検査の自動分析装置なども含めて、この金型鑄造法と高度な分析技術が世界の臨床検査(特に、生化学や血液学分野)をリードしていることには間違いない。

話は戻るが、私はこのような鑄造法を使用したNゲージやモデルガンなどの玩具が大好きという訳である。本稿では、特に、私のお気に入

りのダイキャスト固定翼機モデル(1/200 スケール)をいくつか紹介したい。

#### ◆コレクションの紹介

##### ① YS-11

日本航空機製造株式会社が製造した陸上多発のターボプロップエンジン方式の旅客機で、戦後初めて国内のメーカーのみで独自開発した旅客機としてはあまりにも有名である。正式名称は「ワイエスいちいち」というが、一般には「ワイエスじゅういち」と呼ばれている。国内では、国土交通省、自衛隊、海上保安庁、全日本空輸(ANA)などの国内航空各社で長期にわたり運用されていたが、現在では国土交通省、海

上保安庁および旅客機用途では全ての運用(運航)が終了し、海上自衛隊および航空自衛隊でのみ運用される貴重な機種となった。

図1には、国土交通省航空局が飛行検査の検査機として使用していた形式：YS-11A-500，国籍記号・登録番号：JA8709，製造番号：2084 モデルを掲載した。

図2には、海上保安庁が海上における治安維持、船舶の航行安全、捜索救難、環境保全で使用していた形式：YS-11A-500，国籍記号・登録番号：JA8701，製造番号：2093 モデルを掲載した。このモデルの特徴は、塗装が導入当初(海上保安庁 旧塗装時代)の紺色に黄色帯が塗装されていることである。

図3には、海上保安庁第3管区羽田航空基地に所属していた形式：YS-11A-500，国籍記号・登録番号：JA8727，製造番号：2175 モデルを掲載した。本機は、離島からの急患輸送、長い滞空能力を生かした救難活動に加えて、羽田基地配備ということもあり南鳥島への職員・物資の輸送にも活躍した。モデルは、塗装が現在のマリブルーになっているが、平成12年まで見られた海上保安庁ロゴ時代を再現していることが特徴となっている。

航空自衛隊におけるYS-11型には種々の使用用途に併せて導入が行われた。輸送を担当する



図1 国土交通省航空局 YS-11A-500



図2 海上保安庁 YS-11A-500 (旧塗装型)



図3 海上保安庁第3管区羽田基地  
YS-11A-500 (現塗装型)

YS-11P 型および YS-11C 型，飛行点検を担当する YS-11FC 型，航空訓練を担当する YS-11NT，電子支援を担当する YS-11E 型および YS-11EA 型，電子測定を担当する YS-11EB 型がその用途に併せて用いられている。図4には，航空自衛隊でも最も興味のある埼玉県入間基地の航空総隊司令部飛行隊電子支援隊の YS-11E 12-1162 を掲載した。背面のレーダードームが2つあること，垂直尾翼に描かれている総隊司令部飛行マークが特徴である。但し，入間基地の航空総隊司令部飛行隊電子支援隊に所属している他の YS-11EA/EB についても，各種電波情報の収集にあたっているとされているが性能，ミッション等は一切公開されていないなどの多い機体が多い。図5のように同じ電子支援を担当する YS-11 型であっても，その用途により機体の塗装や装備が異なる点までダイキャストモデルは精密かつ忠実に再現している。



図4 航空自衛隊航空総隊司令部飛行隊電子支援隊  
YS-11E 12-1162



図5 航空自衛隊航空支援集団総隊司令部電子支援隊 YS-11  
写真手前よりYS-11E 12-1162，YS-11EA 12-1162，YS-11EB 02-1159，  
YS-11EB 92-1157，YS-11EA 12-1162

海上自衛隊ではYS-11M-Aが航空輸送(本土と小笠原、南鳥島など)のための輸送機、YS-11Tが搭乗員教育(対潜哨戒業務)のための訓練機としてそれぞれ運用されている(図6)。

図7には、今は懐かしいANAの形式:YS-11-100, 国籍記号・登録番号:JA8645を掲載した。私も本物の飛行機を見たのは、山形空港が開設して間もない昭和39年7月に羽田空港より到着した定期便のYS-11が最初であった。当時、東京・山形間は鉄道で7時間くらいかかっていたと思うが、それが1時間で東京・山形間が結ばれたことに大変驚いた記憶がある。そして、私が最初に飛行機に搭乗したのもYS-11だが、これからずっとあとの大学2年の時に富山・羽田便が初フライトであった。まさか、今ではStar Alliance系だけのライフフライトマイル(LTマイル)も902,614 LTマイルになる、飛行機オタクになるとは想像もしていなかった。

その後、YS-11には大きな改良も施され、その改良型は旅客機としては不動の地位を築くことになるYS-11Aとして、本機が退役するまで全国の空を飛び続けた。

## ② P-3C ORION

ここまでの内容からすると相当の自衛隊オタクと思われるかもしれないが、確かに自衛隊オ

タクではあるは事実である。中学生時に興味があった無線とも関係しているかは不明であるが、レーダーなどを搭載し無線に関係する飛行機はプロペラ機での用途が多い。このため、どうしても自衛隊機にコレクションが集中してしまう。

さて、P-3Cであるが、正式名称はロッキードP-3。アメリカの航空機メーカー、ロッキード社(現ロッキード・マーティン社)が開発したターボプロップ・エンジン4発を搭載するL-188エクストラ旅客機を、哨戒および対潜作戦用に改造して作られた航空機である。愛称は「オリオン」。日本ではその英語読みから本機愛称を「オライオン」といわれている。P-3は、西側諸国を代表する哨戒機で、米国海軍はもちろんのこと海上自衛隊でも広く運用されている代表機種のひとつである。国内では、川崎重工業株式会社がライセンス生産している。また、最近ではソマリア沖、アデン湾における派遣海賊対処行動航空隊として交代でジブチ共和国にも派遣され、日本の国益の保護にも大きく寄与している。

私のコレクションの中でも特に、P3-C固定翼機は最も大好きなダイキャスト固定翼機モデルである。



図6 海上自衛隊 YS-11

写真手前より厚木航空基地第61航空隊YS-11M-A, 下総基地第205教育航空隊YS-11T-A



図7 全日本空輸 YS-11-100

図8は、海上自衛隊第2航空群第2航空隊 八戸基地所属のP3-C 5101号機である。北方領海の哨戒警備や遭難船舶などの捜査救難、冬季には流水観測等の業務に従事している。

図9は、海上自衛隊下総教育航空群第203教育飛行隊 下総基地所属のP3-C 5029号機である。尾翼のスコードロンマークの中心にある星は第203教育隊を意味している。5つ伸びている赤い線の先は日本全国の海上自衛隊基地を意味しており、上から青森県八戸(第2航空群)、神奈川県厚木(第4航空群)、山口県岩国(第31航空群)、鹿児島県鹿屋(第1航空群)および沖縄県那覇(第5航空群)を意味し、下総から若鷲(搭

乗員)が日本全国の各地に巣立っていく様子を表現している。ダイキャストモデルでは、これが忠実に模写されている。このダイキャストモデルのコレクションには見とれるばかりである。ダイキャストモデルでは、尾翼のスコードロンマーク(エンブレム)も忠実に再現されている(図10)。

図11には、海上自衛隊技術研究本部で開発が進められている、将来センサシステム(遠方にあるミサイルから放射される赤外線を検知するシステム)を機体上部に搭載したP-3Cの改良機種でUP-3C AIRBOSS および対潜哨戒用レーダシステムを機体下部に搭載したUP-3C 9151号機



図8 海上自衛隊第2航空群第2航空隊八戸基地所属 P3-C 5101



図9 海上自衛隊下総教育航空群第203教育飛行隊下総基地所属 P3-C 5029



図10 P3-C各航空隊：エンブレムに注目  
写真手前より，八戸(VP-2)，厚木(VP-3)，那覇(VP-5)，  
厚木(VP-6)，厚木(51S)，下総



図11 海上自衛隊技術研究本部 P3-C  
写真手前より，UP-3C 9151，UP-3C 51FD FRONTIER，  
UP-3C(研究試作機)

を掲載した。北朝鮮を含む第三国からのミサイル攻撃に対応するための空の監視役としての重要性は高まるものと思われる。

### ③ その他のコレクションの紹介：E-2CおよびUS-1A

図12には，米国ノースロップ・グラマン社が製造している早期警戒機である E-2C を掲載し

た。海上自衛隊で飛行警戒監視の目的で運用されている。愛称はホークアイ(hawkeye：鋭い視力・鷹の目，の意味)。ダイキャストモデルでは，機体上部のレーダーについても詳細にモデル化している。

図13には，海上自衛隊の救難飛行艇 US-1A を掲載した。子供の頃に誰でも作ったプラモデ



図12 海上自衛隊 ホークアイ



図13 海上自衛隊救難飛行艇 US-1A



図14 教授室に陳列してあるダイキャスト固定翼機モデル(1/200 スケール)  
陳列のショーケースは裏面が鏡になっており、前後もよく見える模型陳列専用のショーケース。

ルのひとつである川西航空機株式会社製造の世界最大四発軍用飛行艇二式大艇を原機とする、新明和工業株式会社が製造する US-1A である。最近では、某テレビ司会者がヨットで航海中に遭難し本機で救助された話はあまりにも有名である。

#### ◆おわりに

今回写真などでも紹介したコレクションは一部にしか過ぎないが、模型マニアのオタクさをおわかり頂けましたら大変うれしいことである。オタクは、結局は自己の世界で自分さえ楽しければヒトからどう思われようと思わない、私も

そんなオタクのひとりのようである。

取り留めもなくコレクションのダイキャスト固定翼機モデル(1/200 スケール)を説明したが、とにかく模型の大きさ(スケール)と機種などに拘り続けショーケースに飾っておくのが大好きなだけです(図14)。何事も趣味だから安物でもよいのではなく、趣味だからこそ一流のものとそれをコレクションするためにお金を使う。そして、何が何でも探し出しコレクションする。これが一番の「趣味に生きる」という、一般に言われる「道楽」という言葉の語源そのものなのかもしれない。この楽しみは当分続きそうです。

読者の方にはさまざまな趣味をお持ちの方がおいでかと思えます。  
編集室では本コラムへのご投稿を心よりお待ちしております。